

二〇一八(平成三十)年度

日本文学専攻博士論文・修士論文
日本文学専修卒業論文一覧

博士論文

中原中也 詩の方法と飛翔の研究

吉田恵理

——1925年から1954年までに放送を中心に

山下洋子

共立女子大学図書館所蔵「竹取物語絵巻」

詞書に関する研究

尾崎栞

中間報告書

晩年の室生犀星における〈女ひと〉と〈老

い〉の表象

米山大樹

室町後期から江戸前期における堂上歌壇史

研究補遺

本山八重子

『源氏物語』の意識と人間関係

——表現を手掛かりにして

路谷雄輝

現代日本語における漢語接頭辞について

曹佳楽

修士論文

大江健三郎『静かな生活』における障害者

表象——「人間の生き方のモデル」となる「家族」

のなかで

松本拓真

明治二〇年前後の小説論における、主体を

めぐる思考——『小説神髓』を中心に

吉田大郎

マスメディアにおける外来語の扱いの変遷

について

描き分けられた大君・中の君姉妹

——中の君の昼寝の場面に注目して

福田千晴

「お祈りメール」における配慮のあり方を

考察する

長谷川笑里

稚児物語の中の稚児——美少年に託されたもの

利用されたお伽草子——『きりぎりすの物かたり』

の読まれ方

大内芙美香

常盤物から見る望まれた女性

「太平記」北条高時の語り

石毛温子

——沈黙の最期を考える

「太平記」における「大森彦七が事」を読

小関あかり

む——襲い来るかつての英雄

お伽草子『はたけ山』における中世文学の

佐々木萌

三大テーマについて

水上茉依子

性格からみる庶民小説——騙さない主人公

護良親王の涙の理由——天正本における特徴

荒木智香

小笹健太

「対策」の研究まとめ＋『菅家文章』巻第九

「請三秀才課誠新立二法例一状」を通し

て菅原道真の策問を読む

仲住若奈

『源氏物語』の和歌における植物の描き方

『新古今和歌集』の比較から

坂田樹里

『源氏物語』の和歌における植物の描き方

『新古今和歌集』の比較から

藤本真衣

卒業論文

『新古今和歌集』に入集する藤原定家の恋

の歌

赤羽麻莉

梅の和歌の特徴について——『古今和歌集』と

『新古今和歌集』の比較から

藤本真衣

『源氏物語』の和歌における植物の描き方

神仙境界考——『懐風藻』吉野詩の意義

藤田茉莉佳

『搜神記』における動物の在り方

浅井謙吾

立山の探求

琴井谷渚

近世における地獄めぐり譚

八巻詩子

『夢見る部屋』における夢

今裕美

——視線の先に見る夢の痕跡

——白蓮事件を通して

『No.6』作品論 都市空間、語り、メデイ

アマミックスの問題を中心に 大村菜恵

上林暁『聖ヨハネ病院にて』論

——夫婦の真実をめぐる内省と沈黙 水野正勝

『おジャ魔女どれみ』作品論——おジャ魔女た

ちが見つめようとしたもの 武井智啓

『文学』からの逸脱——岡崎京子『PINK』『ヘルタ

ースケルター』論 村松まりあ

横光利一『微笑』論——〈文学的象徴〉としての

〈零点五〉を中心に 石橋奈津

過程を見つめることの「知性」——庄司薫『赤

頭巾ちゃん気をつけて』論 白石和泉

最果タヒが反射する現代 中里茉弥

咀嚼する愛——山田詠美「姫君」論

小笠原史歩

「書く」ことへ歩み出す——安部公房、島尾敏雄、

金子聖奈

大岡昇平の場合

江戸川乱歩『黒蜥蜴』論 海老澤彩香

——女賊「黒蜥蜴」は何者がか